

信州ワイド



島田村長に義援金の使い道を相談するジャコさん(左)とグランデマンジュさん(右から2人目)

仏で義援金60万円集める

長野の仏人夫妻 ストーブ購入に

栄村

長野市戸隠在住のフランス人夫妻が1日、県北部地震で被災した下水内郡栄村に、母国で集めた義援金約60万円の使い道を相談し、仮設住宅のストーブを購入して村に

贈る方針が決まった。仮設住宅は55戸建てる予定。ストーブは各戸に贈る考えだが、余る場合は集会所で使ってもらう。

夫妻は、日本酒を海外に紹介しているドミニク・グランデマンジュさん(52)とフリー

ライターのリトルビー・ジャコさん(45)。地震発生後の3月半ば、福島第1原発事故の影響を懸念する仏政府の手配で帰国した。

信濃毎日新聞特約記者だったジャコさんは、取材で訪れた栄村が気掛かりだったという。義援金を募ろうと、2人はジャコさんの古里バニエ村で隣村に住む日本人声楽家の演奏会を開催。会場いっぱい約240人が訪れた。バニエ

エ村役場にも募金箱を置いた。

4月半ばに日本に戻った2人は「お金の使い道が見える形で寄付したい」と考え、雪深い栄村では仮設住宅で冬を越すのは大変だろうとストーブ購入を思い付いた。1日、村役場で島田茂樹村長に提案し、快諾された。グランデマンジュさんは「募金してくれた人にストーブを買うことを報告したい」と話した。